

Q 6.花粉症の薬物治療はどうするの？

A <まず目のかゆみなどの症状を抑えます>

花粉症の症状が出たら、悪化しないように対症療法をきちんと行います。対症療法に用いる薬剤としては、抗アレルギー薬のヒスタミン H1 拮抗薬とメディエーター遊離抑制薬、副腎皮質ステロイド薬などがあります。これらを医師の指示に従って点眼または内服します。

・抗アレルギー薬(ヒスタミン H1 拮抗薬、メディエーター遊離抑制薬)

ヒスタミン H1 拮抗薬はかゆみを引き起こすヒスタミンの作用を直接阻止するので、主にかゆみのある時に処方されます。メディエーター遊離抑制薬はヒスタミンなどを増やさないようにする作用があり、効果が現われるまでに 2 週間くらいかかります。そのため、花粉が飛散する 2 週間くらい前から点眼を開始し、飛散 期間中の症状を軽減するという治療法によく使われています。

・副腎皮質ステロイド薬

薬の効果という点だけ考えると、ステロイドは非常に強力な症状の改善効果を示します。花粉症だけでなくアトピー性皮膚炎、気管支喘息、さらにリウマチなどにも使われている薬です。ところが効果の反面、副作用も強いので長期間使っていると副作用によってさまざまな異常が現われ、花粉症より深刻な病気になってしまう場合もあります。

薬を点眼または内服して症状がおさまったからといって花粉症が治ったわけではありません。ただし根気よく治療を続けると、次第にアレルゲンに反応しにくくなり、症状が軽くなっていきます。医師の指示に従ってきちんと治療を受けることが大切です。